本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。



CASIO

P

電波時計

2703＊JA

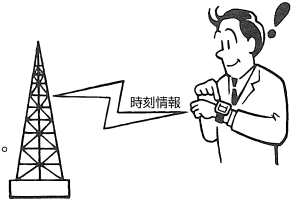
取扱説明書

2703

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願い申し上げます。
なお、この説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。
本機のお取り扱いで、万一、誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることは一切ありません。本機の特長、機能を十分に使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

◆本機の特長◆

●正確な時刻を表示（電波時計）
日本の標準時刻をのせた長波標準電波JJY（60kHz）を受信して、正確な時刻を表示します。



●テレメモ
最大30件の名前＆電話番号を記憶します。

●ワールドタイム
世界27都市（29ゾーン）の時刻がわかります。

●アラーム・時報報知
任意の時間にアラームを鳴らすことや、毎正時に時報を鳴らすことができます。

●ストップウオッチ
1/100秒単位で23時間59分59秒99まで計測できます。

安全上のご注意

絵表示について

この注意書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、色々な絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ **危険**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は「気をつけるべきこと」（注意）を意味しています。
（左の例は感電注意）



⃠ 記号は「してはいけないこと」（禁止）を意味しています。
（左の例は分解禁止）



● 記号は「しなければならないこと」（強制）を意味しています。
（左の例は電源プラグをコンセントから抜く）

⚠警告

本機をスキューバダイビング（アクアラング）に使用しないでください。

※本機はダイバーズウオッチではありません。誤って使用すると、事故の原因となります。



電池の取り扱いについて

本機で使用しているボタン電池を取り外した場合は、誤ってボタン電池を飲むことがないようにしてください。特に小さなお子様にご注意ください。

電池は小さなお子様の手の届かない所へ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

⚠注意

お手入れについて

ケース・バンドは汚れからサビが発生し、衣服の袖口を汚すことがあります。ケース・バンドは常に清潔にしてご使用ください。特に、海水に浸した後放置しておくとサビ易くなります。

⚠注意

かぶれについて

時計の本体およびバンドは、直接肌に接触していますので、使用状態によってはかぶれを起こす恐れがあります。

①金属・皮革に対するアレルギー
②時計の本体およびバンドの汚れ・サビ・汗等
③体調不良等

- バンドをきつくしめると、汗をかきやすくなり、空気の通りが悪くなりますのでかぶれ易くなります。バンドは余裕をもたせてご使用ください。
- 「抗菌防臭バンド」は汗などによる細菌の繁殖を抑え、においの発生を防ぐもので、皮膚のかぶれを防ぐものではありません。
- 万一、異常が生じた場合は、ご使用を中止し、医師にご相談ください。

分解しないでください

本機を分解しないでください。ケガをしたり、本機が故障する原因となることがあります。



データ控えを作ってください

記憶させた内容は、備忘録やノートなどに書くなどして、本機とは別に、必ず控えを残してください。
本機の故障、修理や電池消耗により、記憶内容が消えることがあります。



⚠注意

ご使用にあたって

時計表示の確認は、思わぬ転倒やケガの予防のため、十分に安全が確認された場所で行なってください。特に、道路でのマラソンやジョギング、自転車やバイク・自動車等の運転中は事故の原因になることがありますので、十分にご注意ください。また、第三者への接触による事故防止にも十分にご注意ください。

時計が止まった場合は、速やかに電池を交換してください。

時計着脱の際に、中留で爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。特に、長く伸ばした爪では、中留の操作はおやめください。

思わぬケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、就寝時は時計をはずすなど十分にご注意ください。

幼児を抱いたり、接したりする場合は、幼児のケガやアレルギーによるかぶれを防ぐため、時計をはずすなど十分にご注意ください。

ライト点灯機能について

どのモードでもⓁボタンを押すと文字板が約2秒間発光し、暗いところでも表示を見ることができます。

※もう一度Ⓛボタンを押すと、その時点から引き続き約2秒間点灯します。ただし、Ⓛボタンを約15秒以上押し続けると、自動的にライトが消えます。



〈注意事項〉

- ●直射日光下では、発光が見えにくくなります。
- ●発光中にアラームなどの電子音が鳴ると、発光を中止します。
- ●発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これは発光のためELパネルが振動するときの音で、異常ではありません。

デジタル表示について

表示内容が自動的に切り替わる動作になったときは、Ⓓボタンを表示が止まり、確認音が鳴るまで（約3秒間）押し続け、動作を解除してからお使いください。



目次

操作のしくみと表示の見方 8

電波時計について 10
- 電波時計とは …… 10
- 標準電波 …… 10
- 電波の受信範囲の目安 …… 11
- 使用場所について …… 11
- 受信方法について …… 12
- 自動受信 ON／OFF 切り替え …… 14
- 受信日時の確認 …… 14
- 受信に関するご注意 …… 15
- 電波時計 Q & A …… 16
- 電波時計こんなときには …… 17

時刻・カレンダー修正のしかた 18
- デジタル時刻・カレンダー修正 …… 18
- アナログ針部の修正 …… 20

テレメモの使い方 21
- テレメモとは …… 21
- データを入力する …… 21
- テレメモデータの呼び出し …… 24
- データを修正する …… 24
- データを消去する …… 25

ワールドタイムの使い方 26
- ワールドタイムとは …… 26
- 都市のサーチ …… 26
- ワールドタイム「時刻」修正のしかた …… 27

アラーム・時報の使い方 28
- アラーム時刻のセット …… 28
- 鳴っている電子音を止めるには …… 29
- モニターアラーム …… 29
- アラーム・時報の ON/OFF の設定 29

ストップウオッチの使い方 30
- 計測のしかた …… 30

製品仕様 31

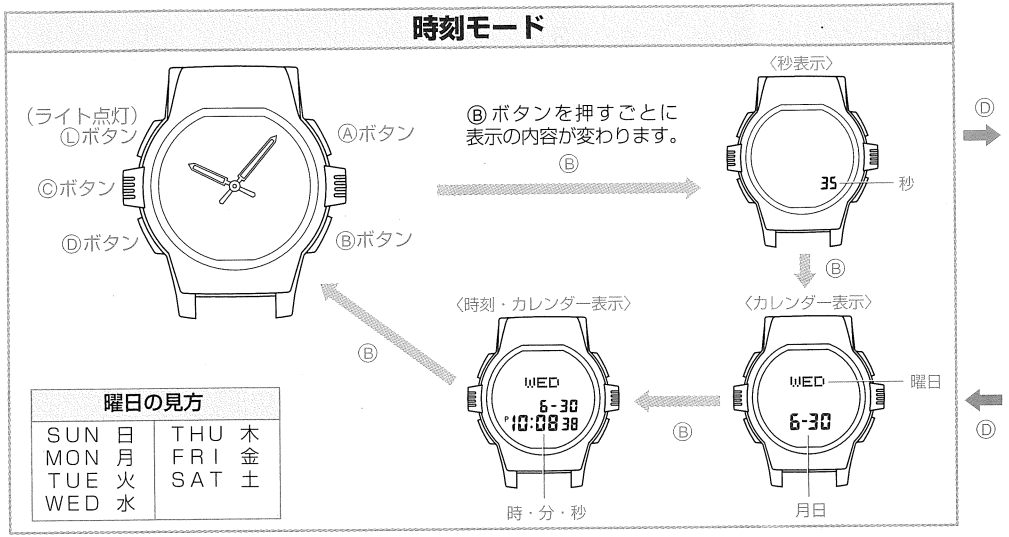
ご使用上の注意 32

お手入れについて 33

電池交換について 34

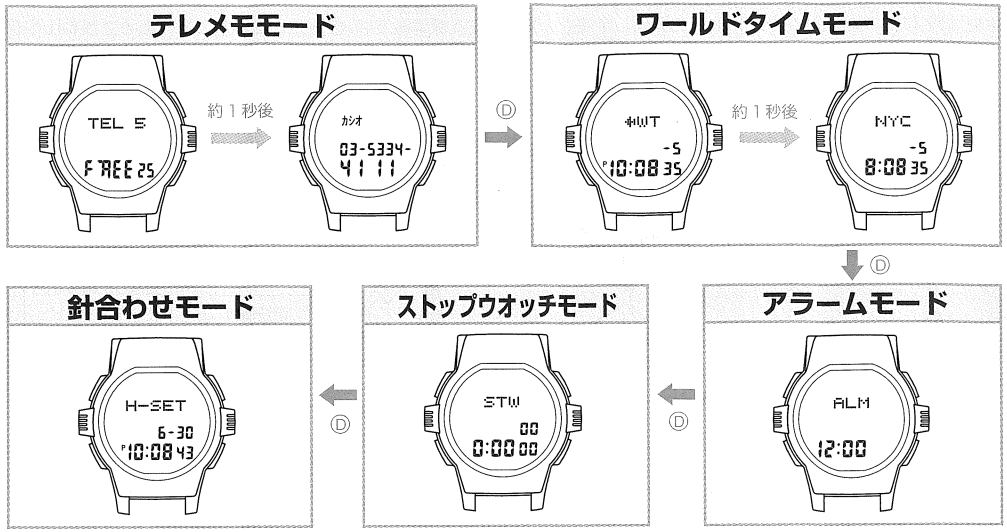
操作のしくみと表示の見方 Ⓓ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順で

※各モードでボタン操作をした後 Ⓓ ボタンを押すと、直接時刻モードに戻ります。
※ワールドタイムモードとストップウオッチモードを除く各モードで何もボタン操作をせずに２～３分間経過すると、
※表示内容や使い方について詳しくは各機能の項目をご覧ください。



表示が切り替わります。

自動的に時刻モードに戻ります。



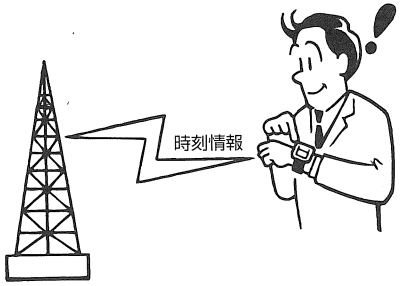
電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報［日本標準時］をのせた標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。
本機は長波標準電波 JJY（60kHz）を受信します。

★日本標準時とは…

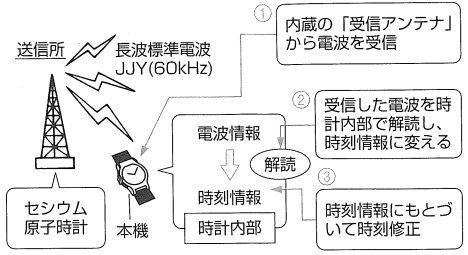
日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。
この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。



■ 標準電波

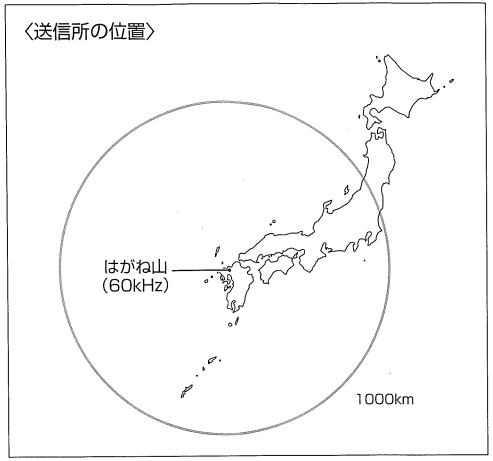
標準電波は独立行政法人通信総合研究所（CRL）が運用しております。
長波標準電波は、佐賀県と福岡県の境にあるはがね山の標準電波送信所から送信されます。

この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信中断されることもあります。



■ 電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおよそ 1,000km 離れた場所でも受信することができます。
※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなるので、受信しにくくなることがあります。
また、受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。



■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。なお、室内で受信するときは、できるだけ窓際で行なってください。
（電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください）


ビルの中およびその周辺
（ビルの谷間など）


高圧線、架線の近く


乗り物の中
（自動車、電車、飛行機など）


家庭電化製品、OA 機器のそば
（テレビ、スピーカー、FAX、パソコンなど）


電波障害の起きるところ
（工事現場、空港のそばなど）


金属板の上、山の裏側…など

受信がうまくできなくても、上記のような場所から離れ、受信条件の良いところで再受信してみてください。

■受信方法について

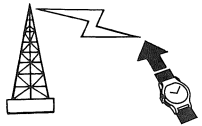
受信方法には、以下の２種類があります。

1 自動受信（深夜、自動的に受信を行なう方法）

2 手動受信（任意の時刻に受信を行なう方法）

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境にあれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。
（電波を受けて修正した時刻を表示しているときは“”マークが点灯します）

●受信前の準備



受信しやすくするために、本機を腕からはずし文字板12時位置を電波送信所方向*（11ページ参照）に向けます。
●文字板12時位置が電波送信所方向に対してまっすぐに向いていないと、受信しにくくなります。
●受信中、時計を動かさないようにします。

〈*なぜ、文字板12時位置を電波送信所に向けるの？〉
本機の文字板12時位置には「受信アンテナ」が内蔵されています。この「受信アンテナ」を電波送信所に向けておけば受信状態が良くなり、受信成功しやすくなるからです。

●受信時間は

受信時間は８～15分必要とします。

1 自動受信

自動受信は午前２時と午前４時の２回行ないます。

●受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正します。



●受信が失敗すると

時刻修正は行ないません。
※もし、午前２時と午前４時の２回とも失敗したときは、受信マークは点灯しません。

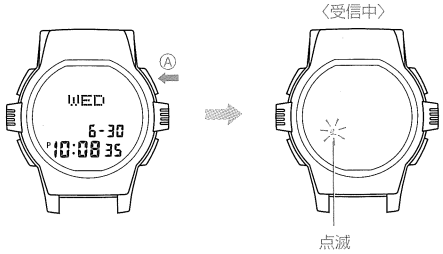


2 手動受信

時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを３～４秒間押し続けます

➔ 確認音が鳴り、受信を開始します。
受信マーク“”が点滅します。



※自動受信しているときは手動受信はできません。

★受信を途中で中止するとき

Ⓐ ボタンを押します

※受信中はⒶボタン以外の操作はできません。

●受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正します。
※１～２分後、時刻モードの表示に戻ります。



●受信が失敗すると

時刻修正は行なわず、“ERROR”を表示して、時刻モードの表示に戻ります。Ⓐ・Ⓑ・Ⓓボタンを押すと他の表示になります。
※１～２分後、時刻モードの表示に戻ります。



●時刻修正の順序

受信による時刻修正は、「デジタル部（現在時刻）」→「アナログ針部」の順で修正されます。

■ 自動受信 ON ／ OFF 切り替え

工場出荷時には「自動受信 ON」にセットされています。この自動受信をOFF（行なわない）にするときや、自動受信OFFからONに戻すときには以下の方法で行ないます。

1. 時刻モードのとき、

Ⓒボタンを押し続けます

➔ 自動受信 ON/OFF 切替表示になります。



2. Ⓑ ボタンを押します

➔ Ⓑ ボタンを押すごとにONとOFFが切り替わります。

3. ON/OFF のいずれかを選び、

Ⓒ ボタンを押します

➔ 時刻モードの表示に戻ります。



※自動受信 ON/OFF 切替表示のまま２～３分すると、自動的に時刻モードの表示に戻ります。

■ 受信日時の確認

1. 時刻モードのとき、

Ⓐ ボタンを押します

➔ 受信により最後に修正した日時を表示します。



2. 確認が終わりましたら、

Ⓐ ボタンを押します

➔ 時刻モードの表示に戻ります。

※確認後 Ⓐ ボタン以外を押すと、そのボタンの機能に切り替わります。

受信に関するご注意

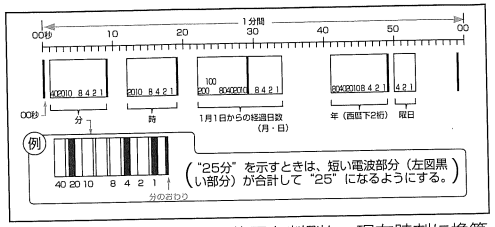
- デジタル時刻とアナログ針部の時刻は合わせておいてください。
  この2つの時刻がずれていると、デジタル時刻が修正されてもアナログ針部が正しく表示されません。
  受信中はデジタル部の表示は消え、受信マークのみ点滅します。
- 自動受信は時刻モードおよびワールドタイムモードでのみ行なわれます。
- 受信中はアナログ針部は動きませんので、時刻がズレていることがあります。
- 自動受信を行なう午前２時および午前４時から15分程度は、ボタン操作を行なわないでください。
- 受信は送信される電波の届く範囲内で行なってください。
  ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼／夜）などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。
- 電波障害および電磁波や極度の静電気により、誤った信号を受信し、間違った時刻およびカレンダーを表示した場合には、手動受信により再度受信を行なってください。
- 電波受信を行なわないときは、31 ページの製品仕様記載の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により誤った時刻表示をすることがあります。
- 受信中はアラーム時報は鳴りません。
- 「年」情報は受信していませんので、「年」は正しくセットしておいてください。
- 本機のカレンダー機能は 2039 年までですので、2040年以降は受信しても時刻のみ修正し、カレンダーは2039年12月31日のままとなります。

電波時計Q＆A

Q　電波からどうやって時刻を解読するのですか？

A 送信所から送られる電波は、時刻情報をモールス信号のように電波の長短（2進法での0と1）で表わしたものです。

※1回の時刻情報は1分間となり、毎分00秒から送信されることで正確な秒を示します。



本機は、この電波の長短の位置を判別し、現在時刻に換算します。現在時刻に換算後、次の00秒のタイミングでデジタル時刻および針の示す時刻を修正します。

Q　受信はいつでもできるのですか？

A 電波はほぼ24時間常時送信し続けていますので、好きなときに電波受信を行なうことができます。

また、「自動受信ON」のときは、午前2時と午前4時の2回、自動的に受信を行ないます。

Q　うまく受信させるコツはありますか？

A

- 文字板12時位置（「受信アンテナ」のある位置）を、電波を送信している送信所（佐賀県と福岡県の境にあるはがね山）に向ける
  ※建物の中で受信するときは、アンテナの向きをいろいろ変えてみて、一番よい方向を見つけてください。
- 電波の届きにくい場所（室内、ビルの谷間など）や電波を妨害するものの近くは避け、できるだけ屋外や、室内では窓際などで受信を行なう
- 受信中は、時計を動かさないようにする



Q　本機を日本以外で使いたいときは

A 本機の受信できる電波の周波数は、日本で送信している電波（60kHz）に合わせて、あらかじめ設定されています。この周波数は変えることができませんので、日本以外（電波の届かないところも含む）でご使用になるときは、通常の時計として使用してください。

電波時計こんなときには

症　状（こうなる）	原　因（こういうわけ）	処　置（こうしましょう）
手動受信ができない	時刻モード以外のとき、および自動受信中（"📡"点滅）に手動受信を始めることはできません。	●手動受信は、時刻モードのときに行なってください。 ●自動受信が終了してから、手動受信操作を行なってください。 →12ページ参照
「自動受信ON」設定にしているのに、"📡"が消えている	●"📡"は、電波受信が成功し、時刻修正を行なったときに表示されます。受信に失敗し、時刻を修正していないときは表示されません。 ●自動受信は時刻モードおよびワールドタイムモードでのみ行なわれます。	●電波の届く場所で使用しているかどうか確認してください。 ●「受信成功」しやすい環境で使用してください。 ●自動受信を行なうときは、時刻モードまたはワールドタイムモードにしておいてください。 →12ページ参照
針が正しく動かない、正しい時刻を示さない	針の示す時刻は、デジタル部の時刻に連動しています。そのため、双方の時刻が合っていないと、針の示す時刻がずれて表示されます。	針合わせモードで針修正を行ない、正しい時刻を表示させてください。 →20ページ参照
日付・曜日が合っていない	本機で表示する曜日は、「年・月・日」をもとに自動計算しているものです。 正しく「年・月・日」がセットされていないと、曜日が正しく表示されません。	「年・月・日」を正しく合わせてください。 （「年」情報は受信していませんので、「年」は正しく合わせてください。）
電波受信しても時刻が合わない	サマータイム切替がONになっていませんか。	1時間進んでいるとき（DSTマーク点灯）はサマータイム切替がONになっています。正しく合わせてください。 →18ページ参照

時刻・カレンダー修正のしかた

本機の表示する時刻・カレンダーは、「自動受信ON」にしておくと、自動的に正しい時刻に修正されますので、通常は修正する必要はありません。
受信できないときや、自動受信OFF（自動修正しない）にしてあるときなどは、以下の操作で任意に時刻を修正してください。

デジタル部の時刻とアナログ針部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

■ デジタル時刻・カレンダー修正

1. 時刻モードのときに

Ⓒ ボタンを押します

➔ 自動受信ON／OFF切替表示になります。

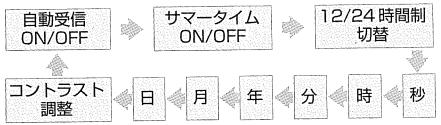


※自動受信ON／OFFについては14ページをご覧ください。

2. 修正箇所を選びます

Ⓓ ボタンを押します

このとき、Ⓓ ボタンを押すごとに修正内容が以下の順に切り替わります。Ⓓ ボタンを押して修正したい箇所（点滅箇所）を選びます。



3. 修正します

Ⓑ ボタンまたは Ⓐ ボタンを押します

➔ Ⓑ ボタンまたは Ⓐ ボタンは、修正箇所（点滅箇所）により以下のように働きます。

- ●自動受信ON／OFF …… Ⓑ で切り替え
- ●サマータイムON／OFF …… Ⓑ・Ⓐ で切り替え
  - ※ONにすると、1時間進む「夏時間」になり、DSTマークが点灯します。
- ●12／24時間制切替 …… Ⓑ で切り替え
- ●秒 …… Ⓑ で0秒修正
  - ※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00」秒になります。
  - 秒修正には「時報サービス117番」が便利です。
- ●時 …… Ⓑ・Ⓐ で修正
  - ※時・分・年・月・日は Ⓑ で+1、Ⓐ で－1します。
- ●分 …… Ⓑ・Ⓐ で修正
- ●年 …… Ⓑ・Ⓐ で修正
- ●月 …… Ⓑ・Ⓐ で修正
- ●日 …… Ⓑ・Ⓐ で修正
- ●コントラスト調整 …… Ⓑ・Ⓐ で調整
  - ※1～7段階で表示濃度を調整できます。

- ●時修正のとき、午前／午後（P）、24時間制にご注意ください。
- ●年は1995～2039年までセットできます。
- ●カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

4. セットが終わりましたら、

Ⓒ ボタンを押します

➔ 点滅が止まり、時刻モードの表示に戻ります。

※デジタル時刻を修正すると、“修正した分”だけアナログ針部も修正されます。
※点滅表示のまま1～2分すると自動的に時刻モードの表示に戻ります。

〈シンクロ機能〉
デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部の針も自動修正されます。
※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて送り（正転方向）または戻し（逆転方向）されます。
※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

■ アナログ針部の修正

アナログ時刻とデジタル時刻が合っていないときは、以下の手順でアナログ時刻を合わせてください。

準備：時刻モードから Ⓓ ボタンを５回押して針合わせモードにします。

1. Ⓒ ボタンを押します

➔「H-SET」が点滅します。



2. Ⓑ または Ⓐ ボタンを押します

➔ Ⓑ ボタンを１回押すと時計回りに 1/3 分（20 秒）進み、Ⓐ ボタンを押すと戻ります。

※ それぞれ押し続けると早く進みます。



3. セットが終わりましたら、

Ⓒ ボタンを押します

※ 点滅表示のまま１～２分すると自動的に点滅が止まります。また、針合わせモードのまま２～３分すると時刻モードに戻ります。

テレメモの使い方

■ テレメモとは

名前８文字、電話番号 12 桁を最大 30 件まで記憶できる機能です。

データを入力すると、名前順に並び替わりますので、データを探すときもたいへん便利です。（24 ページ「テレメモデータの呼び出し」参照）

●テレメモモードにすると

時刻モードからⒹボタンを１回押してテレメモモードに切り替えると、テレメモ入力数と残り件数を表示後、前回一番最後に見たテレメモを表示します。



■ データを入力する

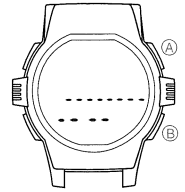
１件あたり、名前はカタカナやアルファベットなどで８文字、電話番号の数字は 12 桁まで入力できます。

1. リセット表示にする

Ⓐ ボタンまたは Ⓑ ボタンを押します

➔ リセット表示にします。

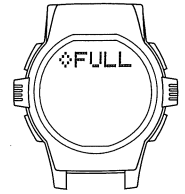
※ データを１件も入力していないときにテレメモモードにすると、自動的にリセット表示になります。



〈リセット表示〉

＜ご注意＞

30 件すべて入力してあるときは「◇FULL」表示となり、リセット表示になりません。このときは、25 ページ「データを消去する」を参照して不要なデータを消しておいてください。



2. 名前の入力（最大８文字まで）

Ⓒ ボタンを押します

名前部が点滅しているとき、以下の操作（**a. 文字を選ぶ、b. 桁を選ぶ**）を繰り返して入力します。

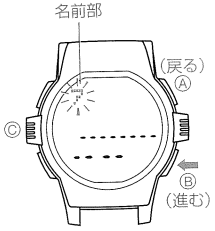
a. 文字を選ぶ

Ⓑ または Ⓐ ボタンを押します

Ⓑ または Ⓐ ボタンを押すごとに点滅箇所の文字がかわりますので、表示させたい文字を選びます。

※ Ⓑ・Ⓐ ボタンとも、押し続けると早く進みます。

※ カタカナのときは、押し続けるとア段の早送り（ア⇔カ⇔サ⇔タ…）になります。



入力できる文字は以下のとおりです。

カ タ カ ナ ＞ ア～ン、ァ、ィ、ゥ、ェ、ォ、ッ、ャ、ュ、ョ、゛、゜

アルファベット ＞ A～Z

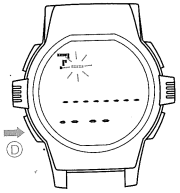
数　　字 ＞ 0～9

記　　号 ＞ ー、．、／、：、☎、空白

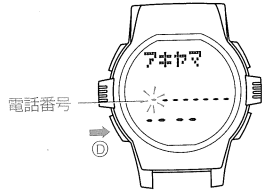
b. 桁を選ぶ

Ⓓ ボタンを押します

Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の桁が右に移動しますので、文字を入力したい桁を点滅させます。



➔ 名前の入力がすべて終わりましたら、Ⓓ ボタンを押して点滅桁を電話番号に移動させます。（下図）



3. 電話番号部の入力

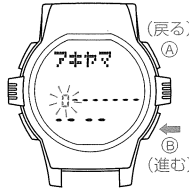
電話番号部が点滅しているとき、以下の操作（**a. 数字を選ぶ、b. 桁を選ぶ**）を繰り返して入力します。

a. 数字を選ぶ

Ⓑ または Ⓐ ボタンを押します

ⒷまたはⒶボタンを押すごとに点滅箇所に数字が表示されますので、表示させたい数字を選びます。

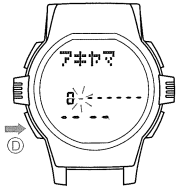
※ Ⓑ・Ⓐ ボタンとも、押し続けると早く進みます。



b. 桁を選ぶ

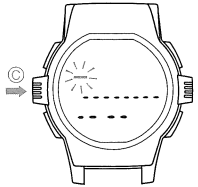
Ⓓ ボタンを押します

Ⓓ ボタンを押すごとに点滅箇所の桁が右に移動しますので、数字を入力したい桁を点滅させます。



4. 電話番号入力後、Ⓒ ボタンを押します

➔ 新規入力表示になりますので、続けて他のデータを入力できます。

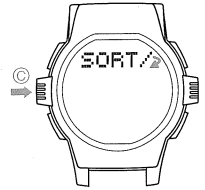


＜新規入力表示＞

5. すべてのセットが終わりましたら、

もう一度 Ⓒ ボタンを押します

➔ ソート表示後、テレメモモードに戻ります。



■ テレメモデータの呼び出し

テレメモモードのときⒷまたはⒶボタンを押します

➜ Ⓑボタンを押すごとに名前順に進み、Ⓐボタンを押すごとに逆方向に戻ります。

※Ⓑボタン、Ⓐボタンともにそれぞれ押し続けるとデータが早く進みます。

※名前が６文字以上入力してあるときは、「スクロール表示」します。



■ データを修正する

1. **ⒷまたはⒶボタンを押して修正したいデータを選びます**

2. **Ⓒ ボタンを押します**



3. **Ⓓ ボタンで修正したい箇所に点滅を移動させ、Ⓑ・Ⓐボタンで正しい文字・数字を表示させます**



4. 修正が終わりましたら、

Ⓒ ボタンを押します

➜ ソート表示後、テレメモモードに戻ります。

※点滅表示のまま、２～３分すると、自動的に点滅が止まり、テレメモモードに戻ります。

■ データを消去する

1. **Ⓑ または Ⓐ ボタンを押して消したいデータを選びます**

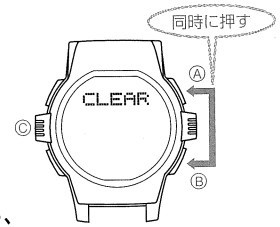


2. **Ⓒ ボタンを押します**

3. **Ⓐ・Ⓑ ボタンを同時に押します**

➜ "CLEAR" 表示後、データが消去されます。

※ データ消去後は、引き続きデータ入力ができます。



4. 消去が終わりましたら、

Ⓒ ボタンを押します

➜ テレメモモードに戻ります。

※ 点滅表示のまま、２～３分すると、自動的に点滅が止まり、テレメモモードに戻ります。

• テレメモモードで何もボタン操作をしないと、2～3分後自動的に時刻モードに戻ります。

ワールドタイムの使い方

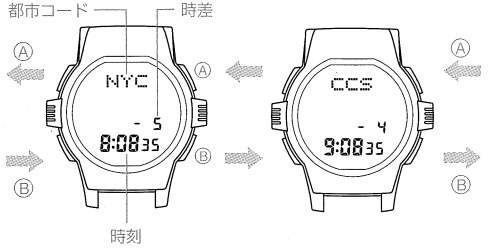
■ワールドタイムとは

世界27都市29タイムゾーンの時刻を知ることができる機能です。
また、都市ごとにサマータイムを設定できます。

■都市のサーチ

ワールドタイムモードのとき、

Ⓐ または Ⓑ ボタンを押すごとに都市コードが呼び出されます



※Ⓐ・Ⓑ ボタンをそれぞれ押し続けると都市コードが早く進みます。

●ワールドタイム都市コード一覧

都市コード	都市名	時差	同一標準時の他の都市・地域
---		−11	パゴパゴ
HNL	ホノルル	−10	パペート
ANC	アンカレジ	− 9	ノーム
LAX	ロサンゼルス	− 8	サンフランシスコ、ラスベガス、シアトル
DEN	デンバー	−7	エルパソ、エドモントン
CHI	シカゴ	− 6	ヒューストン、メキシコシティ
NYC	ニューヨーク	− 5	モントリオール、マイアミ、ボストン
CCS	カラカス	− 4	サンティアゴ
RIO	リオデジャネイロ	− 3	サンパウロ、ブエノスアイレス
---		− 2	
---		− 1	アゾレス諸島
GMT		± 0	〈グリニッジ標準時〉
LON	ロンドン	± 0	ダブリン
PAR	パリ	+ 1	ローマ、マドリード、フランクフルト
CAI JRS	カイロ エルサレム	+ 2	アテネ、ヘルシンキ、ベイルート
JED	ジッダ	+ 3	クウェート、モスクワ
THR	テヘラン	+ 3.5	
DXB	ドバイ	+ 4	アブダビ
KBL	カブール	+ 4.5	
KHI	カラチ	+ 5	
DEL	デリー	+ 5.5	
DAC	ダッカ	+ 6	
RGN	ヤンゴン	+ 6.5	
BKK	バンコク	+ 7	ジャカルタ、ハノイ
HKG	ホンコン(香港)	+ 8	シンガポール、クアラルンプール、北京、台北、マニラ
TYO	東京	+ 9	ソウル、平壌
ADL	アデレード	+ 9.5	
SYD	シドニー	+10	グアム
NOU	ヌーメア	+11	ポートビラ
WLG	ウェリントン	+12	クライストチャーチ

※この表は2001年6月現在作成のものです。
※この表の時差はグリニッジ標準時(協定世界時：UTC)を基準としたものです。

■ワールドタイム「時刻」修正のしかた

27都市のうち、いずれか1都市の時刻を合わせると、自動的に他の都市の時刻も修正されます。

準備：時刻モードから Ⓓ ボタンを2回押してワールドタイムモードにします。



1. Ⓐまたは Ⓑ ボタンを押して、時刻を合わせたい都市を選びます

2. Ⓒ ボタンを押します

➔ サマータイム ON/OFF 切替表示となります。

※ 都市コードがGMTのときは、サマータイムON/OFF切替表示にはなりません。



〈サマータイムOFF〉

このとき、Ⓓ ボタンを押すごとに表示が右のように切り替わります。点滅箇所がセット可能ですので、セットしたい箇所を選びます。



※点滅表示のまま1～2分すると自動的に点滅が止まります。

3. ワールドタイム修正

Ⓐ または Ⓑ ボタンを押します

★サマータイム ON／OFF

Ⓑ ボタンを押すごとにサマータイム ON/OFF が切り替わります。



〈サマータイムON〉

★時刻セット表示
（時または分が点滅）

Ⓑ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進み、Ⓐ ボタンを押すごとに数字が戻ります。

※Ⓑ・Ⓐ ボタンとも押し続けると早く進みます。



4. セットが終わりましたら、

Ⓒ ボタンを押します

➔ 点滅が止まり、ワールドタイムモードに戻ります。

〈ご注意〉
サマータイムは、設定を行なった都市のみ有効となります。あらかじめサマータイム*を設定したい都市を選んでから操作を行なってください。
*サマータイム ‥ DST(Daylight Saving Time)といい、通常の時刻から1時間進める制度のこと。

アラーム・時報の使い方

アラームは分単位でセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子音で知らせます。また、毎正時（00分）に時報を鳴らすこともできます。

■アラーム時刻のセット

準備：時刻モードから Ⓓ ボタンを３回押してアラームモードにします。

1. Ⓒ ボタンを押します

➜「時」が点滅します。
このときアラームマーク（ ）が点灯します。



2. Ⓑ または Ⓐ ボタンを押します

➜ Ⓑ ボタンを押すと「時」が進み、Ⓐ ボタンを押すと戻りますので、セットしたい時刻を表示させます。

※ それぞれ押し続けると早く進みます。

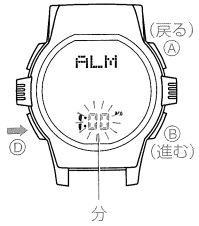


★「時」のセットのとき午前／午後（P）にご注意ください。
★基本時刻を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻も自動的に24時間制表示となります。

3. Ⓓ ボタンを押します

➜「分」が点滅します。

「分」も「時」と同様にしてⒷ・Ⓐ ボタンを押して数字を選びます。



※もう一度 Ⓓ ボタンを押すと「時」が点滅します。

4. セットが終わりましたら、

Ⓒ ボタンを押します

➜ 点滅が止まり、セット完了です。

※ 点滅表示のまま２～３分すると自動的に点滅が止まります。

■鳴っている電子音を止めるには

電子音が鳴っているときに、いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

■モニターアラーム

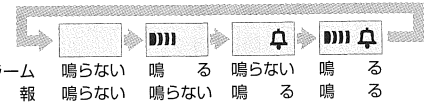
アラームモードのときに Ⓐ ボタンを押し続けると、押し続けている間、アラーム音が鳴ります。



■アラーム・時報のON/OFFの設定

アラームモードでⒷ ボタンを押すごとに、以下の順でマークが点灯／不点灯します。
それぞれのマークが点灯しているときが“ON”となり、アラーム・時報が鳴ります。





※アラーム時刻のセットを行なうと、自動的にアラーム“ON”に設定されます。

- アラームモードで何もボタン操作をしないと、2～3分後自動的に時刻モードに戻ります。

ストップウオッチの使い方

本機のストップウオッチは、1/100秒単位で23時間59分59秒99（24時間計）まで計測できます。計測時間がこの計測範囲を超えると、以後0に戻って繰り返し計測を続けます。

■計測のしかた

準備：時刻モードからⒹボタンを4回押してストップウオッチモードにします。

Ⓑボタンを押すごとに計測開始／終了します

※計測中にⒶボタンを押すと表示が止まり*、スプリットタイムを表示します。もう一度Ⓐボタンを押すとスプリットが解除されます。

*スプリットタイム表示中でも内部では計測を続けています。



●通常計測

Ⓑ ➡ Ⓑ ➡ Ⓐ
スタート　ストップ　リセット

＜積算計測＞
ロスタイムのある場合は、ストップ後リセットせずにⒷボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

●スプリットタイム計測（途中経過時間計測）

Ⓑ ➡ Ⓐ ➡ Ⓐ ➡ Ⓑ ➡ Ⓐ
スタート　スプリット　スプリット解除　ストップ　リセット

●1・2着同時計測

Ⓑ ➡ Ⓐ ➡ Ⓑ ➡ Ⓐ ➡ Ⓐ
スタート　1着ゴール　2着ゴール　2着タイム表示　リセット
（1着タイム表示）

製品仕様

水晶発振周波数：32,768Hz
精度：電波受信による時刻修正が行なえない場合は月差±20秒以内
基本機能：アナログ部
時・分（2針）
デジタル部
月・日・曜日、時・分・秒、
午前／午後（P）／24時間制表示
フルオートカレンダー
（1995～2039年）
電波受信機能：自動受信（午前2時／4時）、
手動受信、受信日時リコール付き、
自動受信ON／OFF切替
受信電波＝長波標準電波 JJY
周波数＝60kHz
テレメモ機能：名前（8文字）と電話番号（12桁）を最大30件までメモリー自動ソート機能
ワールドタイム機能：世界27都市（29タイムゾーン）の時刻を表示、
サマータイム設定機能
アラーム機能：セット単位＝分
電子音＝20秒間
時報　毎正時に2回電子音で報知
ストップウオッチ機能：計測単位＝1/100秒
計測範囲＝23時間59分59秒99
（24時間計）
通常計測、積算計測、
スプリットタイム計測、
1・2着同時計測
その他：自動復帰機能、
12／24時間制表示切替、
モニターアラーム、
ELバックライト
主要素子回路：音叉型高性能水晶振動子、
CMOS-LSI
使用電池：CR-2016（電池別途販売）
※電池はカシオ指定のものをご使用ください。
電池寿命：約18ヶ月
（1日当たり電子音を20秒間、
ELバックライトを2秒間、
電波受信を2回行なった場合）

ご使用上の注意

■防水性

●**表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANT と表示されているもの。**

	BAR無し	5BAR	10BAR	20BAR
洗顔、雨	○	○	○	○
水仕事、水泳	×	○	○	○
ウインドサーフィン	×	×	○	○
スキンダイビング（素潜り）	×	×	○	○

※「BAR」は気圧の意味で、防水性の高さを表わします。
※専門的な潜水＝スキューバダイビング（アクアラング）でのご使用はお避けください。

●**表面または裏蓋に WATER RESIST または WATER RESISTANT と表示されていないもの。**
防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
●防水構造の機種でも、水中でのボタン操作は行なわないでください。
●防水構造の機種はシャワー程度の温水では使用できますが、入浴等で長時間使用することはお避けください。
●海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れをふきとってください。
●防水性を保つために定期的（2～3年を目安に）なパッキン交換をおすすめします。
●電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申し付けください。（特殊な治具を必要とします）
●防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

■バンド

●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
●樹脂バンドも皮バンド同様、日々の使用により劣化し、切れたり折れたりする場合があります。バンドにヒビなどの異常がある場合は、必ず新しいバンドと交換してください。そのときは、お買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにバンド交換をお申し付けください。保証期間内であっても実費にて申し受けます。
●樹脂バンドの表面にシミ状の模様が発生することがありますが、人体および衣服への影響はありません。また、布等で簡単にふきとることができます。

■温　　度

●自動車のダッシュボード等の高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止まったりすることがあります。
●＋60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障をきたすことがありますのでご注意ください。

■ショック

●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけたりすると、故障の原因になります。

■磁　　気

●家庭用電気製品（テレビなど）程度の磁気には影響ないように耐磁構造をとってありますが、強い磁気を発生する器具に近づけると一時的に遅れ／進みが生じることがあります。

■薬品類

●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。

■保　　管

●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などをふきとり、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

■液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと、数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買い上げ店またはカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

■ELパネル（表示照明部）の交換について

表示照明用として使用している EL パネル（エレクトロルミネッセンスパネル）は、長期間使用しますと明るさが弱くなり、光が暗く見えることがあります。このようなときにはお買い上げ店またはカシオテクノ・サービスステーションに交換をお申し付けください。実費にて申し受けます。

■抗菌防臭バンドについて

抗菌防臭バンドは汗などによる細菌の増殖を抑え、においの発生を防ぎ、常に清潔で快適な装着感が得られます。抗菌・防臭の効果を上げるために、バンドの汚れ、汗、水分等は吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にしてご使用ください。抗菌防臭バンドは微生物や細菌の増殖を抑えるためのもので、アレルギー等による皮膚のかぶれ等を抑えるためのものではありません。

お手入れについて

■お手入れのしかた

●時計も衣服同様、直接身につけるものです。本体ケースやバンドの汚れ、汗・水分などは吸湿性のよい柔らかい布でふきとり、常に清潔にご使用ください。
●金属バンドは、時々、部分洗いすることをおすすめします。部分洗いの際、時計本体に水がかからないようにしてください。非防水時計の場合は故障の原因となり、また防水時計でも石けん水により防水性が損われることがあります。

■お手入れを怠ると

●「サビ」
- ステンレススチールはサビにくい性質ですが、汚れによりサビが発生します。
※汚れにより酸素が断たれると、表面の酸化被膜が維持できなくなり、サビが発生します。
- 表面はきれいでも、すきまに付着した汚れやサビがしみ出して、衣類の袖を汚すことがあります。

●「劣化」
- 樹脂バンドは汗などの水分で濡れたままにしておいたり、湿気の多い場所に保管すると、劣化が早くなり、切れたり、折れたりすることがあります。

●「かぶれ」
- 皮膚の弱い方やアレルギー体質の方は、かぶれたりすることがあります。特に、皮バンドや樹脂バンドをお使いの方は、こまめにお手入れをするか、金属バンドのご使用をおすすめします。
- 万一、かぶれた場合には、そのバンドの着用を中止し、皮膚科の専門医にご相談ください。

電池交換について

■最初の電池

●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

■消耗

●電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
●消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

■電池交換

●電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオテクノ・サービスステーションにお申し付けください。
●電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。
●電池交換の際、防水検査を行ないます。（防水検査は別途有料となります）

万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。